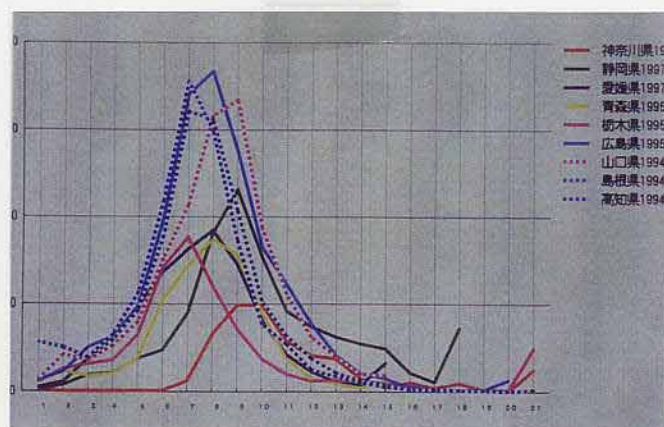


2 今の里山景観

(1) 40～50年生の古い雑木林

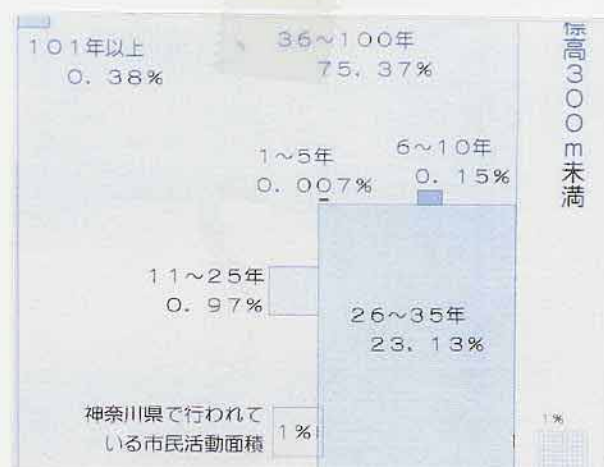
こうした広葉樹林は昭和30年代におきた日本の経済の急激な成長期に石油などの化石燃料によってかわられ、そのまま放置されてきました。さらに建築用のスギやヒノキを植林するために伐られもしました。右のグラフはこうした広葉樹林の年齢を5年ずつのクラス分けして表したものです。8、9年齢級（36～45年）が著しく多く、若い森林が極端に少ないことがわかります。これは利用されていないということを表しています。



神奈川県における広葉樹林の年齢配置

(2) 林床はササがいっぱい

手入れされない雑木林は明るい場合にはアズマネザサがたくさん生えてきます。旺盛に繁茂し、足の踏み場もないほどです。林床には落ち葉が厚くたまり、他の植物が生えなくなります。



神奈川県の広葉樹林年齢配置別面積割合



ササや林床植物を刈りあつめる



ササを刈る